

Y13c 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(7)

山村一誠 (ISAS/JAXA)、「あかり」チーム

赤外線天文衛星「あかり」の残した貴重なデータを天文学研究に有効に活用するため、われわれは衛星運用終了後もデータ処理・解析・アーカイブ活動を継続している。2013年4月より活動している「あかりデータ処理・解析チーム」は、処理に特別なツールとスキルを必要とする「あかり」データについて、あらかじめ処理を施したデータプロダクトを作成・公開することで、「あかり」データのより広い天文学研究への利用を進めようとしている。

我々は2016年4月末に新たに3種類のプロダクトを公開した。「遠赤外線全天天体カタログ Ver.2」は、波長65、90、140、160マイクロメートルで観測した約50万天体の情報を提供する。6年前に公開された初版に比べ、天体数の増加、信頼性・精度の向上を達成した。「近赤外線撮像データ」は、昨年3月に公開された近・中間赤外線撮像データの続編で、冷凍機冷却期の近赤外線観測のデータである。また、「近赤外線分光カタログ」は、波長2-5マイクロメートルの連続的な高感度スペクトルを提供している。ポスターでは、これらのプロダクトの詳細と今後のプロダクト作成計画を示す。

我々は、「あかり」データの科学的価値を高めるため、データに興味を持つ研究者の、データ作成・評価・アーカイブ活動への参加を呼びかけている。また、独自の視点で大規模な系統的解析を行ったユーザーが作成したデータのアーカイブ支援も行っている。興味のある方は iris_help@ir.isas.jaxa.jp まで遠慮無くお問い合わせいただければ幸いである。